

## 第3回定例会 活動報告

## はじめに

倫理研究会が正式に発足してから3回目の定例会を実施しました。倫理研究会は総勢21名なのですが毎回、定例会の参加率が非常に高く、参加メンバーの技術者倫理に対する関心の高さが伺えます。

第3回定例会では18名の会員が参加しました。定例会は約2時間と非常に短い時間でしたが、事例研究の問題点の解決方法や倫理要綱の解説、倫理に関する所感、など精力的に議論しました。

## ■第3回定例会の概要

第3回定例会 11月16日 (株)水工技研 会議室

## 1. 事例研究

今井幹事長より、第2回定例会のおさらいとして事例研究「発注者からの要請」(本事例の概要は、コンサルタツ北海道119号を参照)で登場する「発注者」と「設計者」の行動について、彼らの行動(言動)を技術者倫理の視点で考えるとどの点が問題か?を、技術者倫理要綱のどの項目に抵触しているか項目分けし、なぜその項目に該当するのか参加者の意見を踏まえて整理しました。

## 【発注者】

- 1) 専門技術の権威(第2条)
- 2) 品位の保持違反(第1条)
- 3) 中立公正の堅持(第3条)

その他、「明確な契約に基づかない指示」や「相互の信頼違反」などの問題点が指摘されました。

## 【設計者、施工者】

- 1) 専門技術の権威(第2条)
- 2) 品位の保持違反(第1条)
- 3) 他の専門家との協力不足(第10条)

その他として、設計者では「情報公開違反」や「中立公正の問題」。施工者では、情報開示違反等の問題点が指摘されました。



事例研究「発注者からの要請」の説明(今井幹事長)

第3回定例会では、彼らの倫理上の問題点を「カタチで考える」手法として「相反問題」と「線引き問題」、「解き方で考える」手法として、「功利主義」と「個人尊重主義」によって整理しました。時間の関係上、参加者から意見を集約したのは「相反問題」のみです。「相反問題」は、“あちらが立てればこちらが立たず”の二律背反問題の場合、どちらかの要求が重要かを考えて、明らかな時は重要度の低い方を無視して良いか考え、差し支えなければ無視して良いと考える。しかし、今回(実際?)の事例では、“あちらが立てればこちらが立たず”の選択困難な二



事例研究に関する討議の様子

律背反問題がほとんどで、このような場合は第三の道（創造的折衷案）を考えます。

幹事会からの事前資料として、発注者、設計者がそれぞれの立場において規範遵守義務を守り、かつそれぞれの責務を尊重すべき折衷案を提案していましたが、参加者からは「発注者にモノを言うていくしかない」、「発注者と設計者が対等に議論できる仕組みを作るべき」など、現実的な事例ならではの意見が多数出されました。

これらの意見に対して花田代表は「我々だったらどのように発注者を納得させることができるか。常時、専門技術の権威を意識して落としどころを探すべきであり、それが倫理研究会で議論するところだ」と述べられました。

## 2. 倫理要綱の解説「環境配慮義務」

山岡技術士より、倫理要綱の解説「環境配慮義務(N3)」をより具体的に解釈する上で、NSPE（6つの基本綱領、7つの原則：全米プロフェッショナルエンジニア協会倫理規定）とASCE（7つの基本要領、9つの義務：アメリカ土木技術者協会倫理規定）のどの条文に関連（対応）しているか説明されました。倫理要綱の解釈版を解釈する上で、NSPEとASCEの基本要綱で示す7原則と9義務を関連させることで、イメージを作りやすいとの見解がなされました。



倫理要綱の解説「環境配慮義務」（山岡技術士）

## 3. 倫理所感「武士道」について

富澤技術士より、「武士道」に関する倫理所感がありました。「武士道」は、札幌農学校2期生の新渡戸

稲造がアメリカ合衆国で病氣療養中に英文で封建社会の日本における武士階級の倫理および価値基準の根本的思想を海外に紹介した人です。

「武士道」には23もの項目がありますが、富澤技術士はその中の特に、『義』、『勇』、『仁』、『礼』、『誠』に着目し、特権階級の武士の生活規範や信条がのちに日本人全体の精神的な道徳観として熟成された、と解釈でき、これは技術者倫理にも相通する最適なモデルである、との所見を述べられました。



倫理所感「武士道」について（富澤技術士）

## 4. 技術者倫理研究事例発表大会の参加報告

佐崎技術士より、仙台で開催された第6回技術者倫理研究事例発表大会への参加報告がありました。

発表論文はいずれも興味深い内容だったようですが、特に、「化学技術倫理の体系化に向けた教育の実践例（NPO 科学技術倫理フォーラム 鳥羽瀬技術士）、「科学技術社会的観点からの技術者倫理(ETの会 田岡技術士)」の2つの演題は、倫理という事柄に対して技術的な分析がなされており非常に実践的かつ、わかりやすい内容であったと報告されました。本州では技術者倫理に関する勉強会や団体が存在しており、黎明期にあるわが倫理研究会としても彼らの取組みを参考にすべきとの意見が出されました。

### おわりに

歴戦のツワモノの集まりだけあって、定例会だけで「技術者倫理」を議論するにはあまりに時間が短いですが、来年3月の第1回技術者倫理フォーラムの開催に向けて準備を進めております。

（文責：倫理研究会 幹事 橋本 聖）